

研究主題

変化の激しい時代を生き抜く能力の育成

～子供たちが課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習指導の在り方～（1年次）

目次

第1	研究主題	60
第2	研究の背景	60
第3	研究のねらい	60
第4	研究の内容	61
1	基礎研究	61
(1)	「各校種に応じて育む能力」の例の作成	61
(2)	「各校種に応じて育む能力」を育成するための課題	62
2	開発研究	62
(1)	「『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧」の作成	62
(2)	「主体的・協働的な学習」の実践事例の作成	63
	小学校	64
	○ 国語	
	○ 社会	
	○ 理科	
	○ 生活	
	○ 音楽	
	○ 体育	
	○ 道徳	
	○ 外国語活動	
	○ 総合的な学習の時間	
	○ 特別活動	
	※算数は、「資料」p.88に掲載	
	中学校	74
	○ 国語	
	○ 社会	
	○ 数学	
	○ 理科	
	○ 音楽	
	○ 保健体育	
	○ 技術・家庭（技術）	
	○ 道徳	
	※外国語は、「資料」p.89に掲載	
第5	研究の成果と今後の取組	82
	資料	83

< 研究の成果とその活用 >

1 研究の成果

- (1) 「各校種に応じて育む能力」の例の作成
- (2) 「『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧」の作成
- (3) 小学校・中学校における「主体的・協働的な学習」の実践事例の作成（小学校11教科等、中学校9教科等）

2 研究成果の活用

- (1) アクティブ・ラーニングを取り入れた研修の実施
- (2) 「都教委訪問モデルプラン」を活用した研究内容の普及・啓発
- (3) 高等学校の実践事例の作成

第1 研究主題

変化の激しい時代を生き抜く能力の育成

～子供たちが課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習指導の在り方～（1年次）

第2 研究の背景

グローバル化や情報化の進展、技術革新の波が急速に押し寄せてきていることなどにより、現在の子供たちが社会人として活躍する頃には、社会構造や雇用環境は大きく変化し、将来就くこととなる職業の在り方も現在とは様変わりすることが指摘されている。

また、膨大な情報が溢れる中では、情報を取捨選択し、選択した情報を基に自ら課題を設定して、その課題の解決策を見いだすことは容易なことではなく、適切な解決策は、他者との関わりの中で見付かることが多いことが指摘され、さらに、課題を解決するに当たっては、これまでのように単純に先行モデルを模倣して成功する時代ではなくなることや、一人でできることは限られるため、他者との協働やチームワークが不可欠となることが指摘されている。

これらのことから、我が国の次代を担う子供たちには、変化の激しい時代を生き抜いていくために、自ら学び自ら考え、自分なりに課題を解決する力が求められるとともに、思考力・判断力・表現力等の能力や自らすすんで学習に取り組む態度や、その基盤となる基礎学力や教養も欠かすことはできないものとなる。

内閣府「人間力戦略研究会報告書」（平成15年）、経済産業省「社会人基礎力に関する研究会—中間取りまとめ—」（平成18年）、東京大学大学院情報学環 東京大学生産技術研究所 次世代育成オフィス 大島まり氏（第7期中央教育審議会委員）「これからの時代を生きる力の育成—グローバル人材の育成に向けた取組—」（平成27年）、経済同友会「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待」（平成27年）などによると、次代を担う子供たちに社会や企業が求める能力など、子供たちに求められている「変化の激しい時代を生き抜く能力」には様々なものがあるが、大別すると次のように、自分自身の考えの構築などで用いる「知的能力」と、他者との協働や社会との関わりなどで用いる「社会的能力」の二つの能力に分けられる。

「知的能力」

- 思考力・判断力・表現力等の能力や自ら学習に取り組む態度
- 課題解決において思考の基盤となる基礎学力や教養 など

「社会的能力」

- 価値観や専門の異なる相手とも双方向で真摯に学び合い、チームで協力して課題を解決する合意形成能力
- 自分の考えや意見を論理的に述べ、課題を解決していく論理的思考力 など

第3 研究のねらい

中央教育審議会大学分科会大学教育部会の審議まとめ「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（平成24年）には、大学教育の直面する大きな目標として『生涯学び続け、どんな環境においても“答えのない問題”に最善解を導くことができる能力』を育成することが示されている。また、「大学において『答えのない問題』を発見してその原因について考え、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力を鍛えること」については、学生が自らの人生を切り拓くための最大の財産であることとともに、「産業界や地

域が、「今求めている人材」について、生涯学ぶ習慣や主体的に考える力をもち、予測困難な時代の中で、どんな状況にも対応できる多様な人材であることが示されている。

さらに、生涯学ぶ習慣や主体的に考える人材を育成するための質の高い教育として、「教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修（アクティブ・ラーニング）によって、学生の思考力や表現力を引き出し、その知性を鍛える双方向の講義、演習、実験、実習や実技等の授業を中心とした教育である。」と示されている。

そこで、本研究では、このような大学教育への円滑な接続に向け、「知的能力」と「社会的能力」を小学校・中学校・高等学校の各校種で段階的に育成することが必要であると考え、次のことを研究のねらいとした。

小学校・中学校・高等学校の各校種に応じた必要な「知的能力」と「社会的能力」を育成するために、各校種・教科等の学習指導における「主体的・協働的な学習」の指導法例を作成する。

なお、研究の1年次である今年度は、小学校・中学校における課題の発見と解決に向けた「主体的・協働的な学習」に関する各教科等の指導法例を作成することとした。

第4 研究の内容

1 基礎研究

(1) 「各校種に応じて育む能力」の例の作成

まず、本研究では、子供たちに求められている変化の激しい時代を生き抜く能力を、「知的能力」と「社会的能力」との二つの能力に分けて考え、小学校・中学校・高等学校の各校種において、「知的能力」と「社会的能力」という二つの視点から「各校種に応じて育む能力」を整理し、それぞれの能力の例を設定した。さらに、それらの能力を育成するための指導法の例をまとめた（表1）。

	知的能力		社会的能力	
	育む能力例	指導法例	育む能力例	指導法例
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 正当な批評力、判断力、行動力 ☆ 社会生活を営む上での基礎的教養 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事例研究 ○ プレゼンテーション ○ 課題探究型学習 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 特定の場面における課題解決能力 ☆ コミュニケーション能力 ☆ 分析力や批判的思考力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループディスカッション ○ ディベート ○ ネゴシエーション
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 習得した知識・技能を基に、実行可能な取組などを考える力 ☆ 複数の学習内容の関連性を見いだす力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識・技能を活用するための論述・レポートなどの作成 ○ 教科横断的な学習 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 理論を構築し、筋道立てて課題を解決する力 ☆ 他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事例を基に課題解決力を高める探究的な学習 ○ 互いの考えを生かし合う討論やディベート
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 読み、書き、計算などの基礎・基本を基に考える力 ☆ 身の回りの自然などへの知的好奇心や探究心 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験的な理解や繰り返し学習 ○ 知的好奇心や探究心を育む観察・実験などの体験的な学習 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 学習したことを日常生活との関わりで考える力 ☆ 自分と異なる他者を認識し、理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活の知識・技能を活用する問題練習 ○ 目的、意図、立場を明確にしたペアやグループによる話し合い

表1 各校種に応じて育む能力の例

(2) 「各校種に応じて育む能力」を育成するための課題

次に、各校種に応じて育む能力を育成するために、児童・生徒・学生に取り組ませる課題の例を設定した。なお、ここでは、高等学校の課題例と解答例を記載する。（小学校・中学校・大学の例は、資料 p. 85 に掲載している。）

【「各校種に応じて育む能力」を育成するための課題例（高等学校）について】

○（公立図書館に関し、その現状と課題の他、若者の自立・社会参画支援を推進する場、家庭教育支援のための場、地域の人たちの対話や交流の場としての試みなど今後の公立図書館の可能性等について記した 1,400 字程度の新聞記事を読んで答える問題）今後の公立図書館の在るべき姿について、あなたはどのように考えるか。200 字以上、300 字以内で書くこと。（記述式問題）

〈解答例〉

今後の公立図書館は、「地域の人たちの対話や交流の場」としての機能を広げ子供から大人まで幅広い世代に相互理解と学びの場を提供する役割を担うべきと考える。このため、高校生を対象として、幼児への読み聞かせの方法を学ぶ講座を企画したい。講座では、絵本を読む際の声の大きさや間の取り方、スピードなど、幼児に興味をもって話を聞いてもらうためのコツについて、高校生が図書館の司書やボランティアから学ぶとともに、実際に幼児への読み聞かせを体験する。このことにより、講座に参加する幅広い世代の住民の交流が深まるとともに高校生が、幼児の発達について家庭科で学んだことを実体験によって深める効果も期待できる。

〈育む能力例〉

得た情報を基に、物事を推し量ったり予測したりする力や、目的に応じて必要な情報を見い出して文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連付けたりする力 など

※「入学希望者学力評価テスト（仮称） 記述式問題のイメージ例（国語）」（文部科学省高大接続システム改革会議（第9回）配布資料（平成27年12月22日））より作成

なお、課題の設定においては、次のことを条件として考えた。

- ◇ 児童・生徒については、日常生活との関連など解決に向けて必要感をもてる課題
- ◇ 多くの情報の中から必要だと思うものを取捨選択して、自分なりの考えをもてる課題
- ◇ 一つの見方からではなく、多様な視点から解決方法を見いだせる課題
- ◇ 他者と協働して解決できるような課題
- ◇ 小学校・中学校・高等学校・大学のどの学校段階でも提示ができ、発達の段階に応じて育む能力に合致した水準の解答がもてる課題

2 開発研究

(1) 「『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧」の作成

「知的能力」と「社会的能力」を身に付けさせるための指導法である「主体的・協働的な学習（いわゆるアクティブ・ラーニング）」については、現在も各学校において問題解決的な学習など話し合い活動を取り入れた取組が行われているが、実際には話し合いが活性化しなかったり、一部の児童・生徒が中心となって進めたりするなどの課題がある。

そのため、まず、このような課題が生じる授業について、授業分析を行ったところ、「主体的・協働的な学習」を行うためには、「前提となる知識・技能の習得」と「日常生活との関連などの視

点から解決する必然性のある課題の設定」が重要であることが分かった。

このことから、前提となる知識・技能を習得し、必然性のある課題を設定した上で、「主体的・協働的な学習」を各教科等で積み重ねていくことで、各校種に応じて育む「知的能力」と「社会的能力」の育成につながると考えた。この一連の流れを図で表すと次のようになる（図1）。

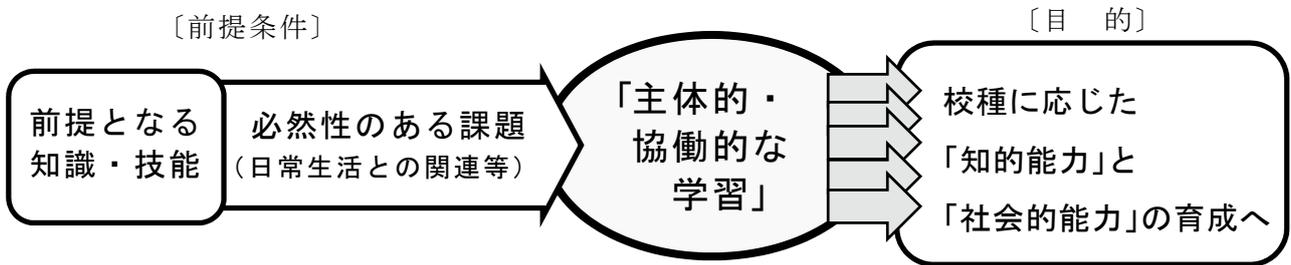


図1 「主体的・協働的な学習」を行う前提条件と目的

次に、「主体的・協働的な学習」を成立させるための指導の工夫を構想し、授業研究を通して検証した。この指導の工夫については、学習過程に沿って、【段階1】「課題を発見し、考えを構築する段階」、【段階2】「他者と関わる段階」、【段階3】「考えを広げたり、深めたりする段階」の三つの段階に整理し、それぞれの段階において、「課題の発見と設定」、「目的」、「振り返りを基にした更なる課題の発見」などの八つの「指導の工夫の観点」を設定し、『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧」を作成した（表2）。

この八つの「指導の工夫の観点」は、課題の発見と解決に向けた「主体的・協働的な学習」の一つの単元あるいは一単位時間の授業を計画する際に、参考になるものと考えた。

段階	(1) 課題を発見し、考えを構築する段階	(2) 他者と関わる段階	(3) 考えを広げたり、深めたりする段階
指導の工夫の観点	<p>①課題の発見と設定 （児童・生徒が解決する必然性のある課題を発見し、学習する課題として設定する。）</p> <p>②自分の考えの構築 （児童・生徒が設定した課題に対して、自分なりに考え、課題の解決策を立てる。）</p>	<p>①目的 （協働して課題を解決する必要性をもたせるように設定する。）</p> <p>②編成 （グループの人数や集団の質を工夫する。）</p> <p>③役割・手順 （編成した集団において分担する役割や、どのように進めていくかの順序を決める。）</p> <p>④表出から集約 （集団の考えの表出の仕方や集約方法を工夫する。）</p>	<p>①自分の考えの再構築 （児童・生徒が課題の解決により、修正したり深化したりした自分の考えをまとめる。）</p> <p>②振り返りを基にした更なる課題の発見 （児童・生徒が更に解決する必要性のある課題を発見する。）</p>

表2 「主体的・協働的な学習」に関する指導の工夫一覧

(2) 「主体的・協働的な学習」の実践事例の作成

『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧」に基づき、小学校・中学校における実践事例を作成した。なお、実践事例については、東京教師道場の部員が実際に行った授業研究を観察し、分析することにより作成したものである。次ページから、これらの実践事例を示す。（小学校・算数、中学校・外国語は、pp. 88-89 に掲載）

小学校

○ 国語

小学校	第1学年	国語	「大きな拍手をもらおう！音読発表会」 教材名「くじらぐも」
（第3時／全9時間）			

単元で育てたい能力

- ◇**知的能力【読み、書き、計算などの基礎・基本を基に考える力】**
 - ・場面の様子や登場人物の行動について想像を広げ、聞き手に伝わるように工夫して音読することができる。
- ◇**社会的能力【自分と異なる他者を認識し、理解する力】**
 - ・他者の読み方で工夫している点を自分の読み方に取り入れることができる。

前提となる 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文の読み方を工夫することができる。 ・読む内容を想像して動作化することができる。 ・ペアで意見を交流することができる。
------------------------	--

必然性のある課題 (日常生活との関連など)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学級に向けて音読発表会を行い、場面の様子が相手に、より伝わりやすい読み方を工夫する。
----------------------------------	---

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容	具体的な指導の工夫
(1) 課題を 発見し、 考えを 構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の目的を確認する。 ・第1学年の他の学級に向けて、音読発表会を行うことを確認する。 全体 ○ 課題を設定する。 ・自分が想像している情景を思い浮かべながら読む。 ○ めあてを確認する。 ・自分で読み方を工夫して読む。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(1)-① 課題の発見と設定 ◆ 音読発表会を設定することで、児童の音読の工夫に対する意欲を高める。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(1)-② 自分の考えの構築 ◆ これまでの学習や経験から、情景を思い浮かべたり、感情を込めて読んだりして、読み方の工夫を考えられるようにする。</div>
(2) 他者と 関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み方について話し合う。 ・他者の読み方を、それぞれ聞き合い、自分の読み方に工夫を取り入れる。 ペア ○ くじらぐもを呼びかける言葉「おーい」を、自分で工夫した読み方で言う。 個人 ○ 友達の読み方で工夫している点を、自分の読み方に取り入れる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(2)-③ 役割・手順 ◆ 役割カードを配布することで「司会」や「読み手」などの役割を意識し、意見を交流させる。円滑に進行できないペアは、教師が指導・助言をする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(2)-④ 表出から集約 ◆ 児童が読み方を発表するごとに意見を発表させる。動作化して読むなど、友達の工夫した読み方を共有し、自分の読み方を工夫させる。</div>
(3) 考えを 広げたり、 深めたり する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返る。 ・工夫した点を全体で共有する。 ・振り返りカードに記入する。 個人 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見 ◆ 文章又は記号で記入できるような振り返りカードで、自分ができるようになったことを振り返らせる。</div>

○ 社会

小学校

第6学年

社会

日本の歴史「戦争と人々の暮らし」

（第2時／全10時間）

単元で育てたい能力

◇知的能力【身の回りの自然などへの知的好奇心や探究心】

・戦時中の日本の様子について興味・関心をもち、学習問題を設定することができる。

◇社会的能力【学習したことを日常生活との関わりで考える力】

・現在の暮らし、世の中の状況と比較して、歴史的事象の意義や関連を考えることができる。

前提となる
知識・技能

- ・日清戦争や日露戦争について、当時の生活の様子を理解している。
- ・東京大空襲で被害を受けた東京のまちの様子を理解している。

必然性のある課題
（日常生活との関連など）

- ・日華事変や我が国に関わる第二次世界大戦の経緯を、当時の生活の様子と関連させながら調べ、自分たちの生活の歴史的背景を理解する。

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容
(1) 課題を 発見し、 考えを 構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を振り返り、本時の課題を捉える。 ・ 写真や資料から学習問題をつくる。 全体 ○ 戦時中と現在の学校の様子を比較し、気付いたことを発表する。 ○ 戦争に関する資料から気付いたことを整理し、調べたいことを記述する。 個人
(2) 他者と 関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が調べたいことについて意見を交換し、グループで調べたいことを整理する。 グループ ○ グループで整理した、調べたいことを全体で共有する。 ・ 学習問題を設定する。 全体
(3) 考えを 広げたり、 深めたり する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題に対する予想を考える。 ・ 予想を発表する。 個人

具体的な指導の工夫

(1)-① 課題の発見と設定

- ◆ 身近な場所の戦時中の様子や遺物の写真等を提示し、前時の空襲の様子と関連付けて考えられるようにする。

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ 戦時中と現在の様子の違いに着目し、気付いたことや疑問に思ったことを整理させる。
- ◆ なぜ調べたいと考えたのか、資料を基に記述させる。

(2)-① 目的

- ◆ グループの意見を整理しやすくするために、出来事や政治、人々の暮らしといった整理する視点を示す。

(2)-④ 表出から集約

- ◆ グループで整理した、調べたいことを短冊に書き、黒板に掲示する。
- ◆ 掲示する際には、児童に分類させ、問題を整理させる。

(3)-① 自分の考えの再構築

- ◆ 学習問題に対する自分の予想を、整理する視点を意識しながら考えるように指導する。
- ◆ どのような学習をすれば解決できるかを意識して、予想を立てるように声を掛ける。

○ 理科

小学校

第6学年

理科

「てこのはたらき」

（第9・10時／全11時間）

単元で育てたい能力

◇知的能力【読み、書き、計算などの基礎・基本を基に考える力】

・てこの規則性を活用しながら調べ、さおばかりの仕組みを考えることができる。

◇社会的能力【学習したことを日常生活との関わりで考える力】

・てこの原理を使って、さおばかりで物の重さを正確に量ることができる。

前提となる
知識・技能

・てこの規則性について理解している。
・両側のてこを傾ける働きが大きさが等しいときに釣り合うことを理解している。

必然性のある課題
（日常生活との関連など）

・さおばかりを使って、正確に重さを量ることができるようにするために、さおばかりにどうやって目盛りを付けるとよいかについて考える。

主体的・協働的な学習

具体的な指導の工夫

学習過程	活動内容
(1) 課題を 発見し、 考えを 構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ さおばかりが、物の重さを量る道具であることを知る。 全体 ・ さおばかりを操作し、仕組みについて理解する。 ペア ○ さおばかりで、正確に物の重さを量る方法を考える。 個人 ・ さおばかりで、正確に物の重さを量るために目盛りを付ける方法を予想する。
(2) 他者と 関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで、さおばかりの目盛りを付けるための方法を検討する。 ペア ○ さおばかりに目盛りを付けるための方法を試す。 ○ さおばかりに目盛りを付けて、具体物の重さを量る。 ○ 具体物の重さの量り方とその重さを発表する。 全体
(3) 考えを 広げたり、 深めたり する	<ul style="list-style-type: none"> ○ さおばかりで、正確に物の重さを量る方法を記述する。 個人 ・ 代表者が発表する。

(1)-① 課題の発見と設定

- ◆ さおばかりが物の重さを量る道具であることを、てこの原理を使っていることを確認する。
- ◆ ペアになり、50gの目盛りが付いたさおばかりを操作させ、「物の重さを正確に量りたい」、「50g以外の物の重さを量りたい」という意欲をもたせる。

(2)-① 目的

- ◆ 自分の予想を基に、さおばかりを使って物の重さを量る方法を全員に考えさせる。

(2)-② 編成

- ◆ 予想についての児童の自信の程度を明示させ、自信の程度が異なる児童をペアにする。
- ◆ 予想についての自信の程度を明示させることによって、児童一人一人に問題に対する自分の考えをもたせる。

(2)-④ 表出から集約

- ◆ さおばかりにどのように目盛りを付け、具体物の重さをどのように量ったかを発表させる。

(3)-① 自分の考えの再構築

- ◆ てこの原理を使って、さおばかりで物の重さを正確に量る方法を記述するように指導する。

○ 生活

小学校 第1学年 生活 「ようこそ小学校へ
一年長さんをおもてなししようー」
(第8時/全12時間)

単元で育てたい能力

◇知的能力【身の回りの自然などへの知的好奇心や探究心】

・園児が小学校入学に期待がもてるよう、身近なことについて事柄の順序を考えて話すことができる。

◇社会的能力【自分と異なる他者を認識し、理解する力】

・自分ができるようになったことを伝える活動を通して、自分自身の成長を実感できる。

前提となる
知識・技能

・相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話すことができる。
・毎時間の活動を記録できる。

必然性のある課題
(日常生活との関連など)

・園児にとって、分かりやすく楽しい活動にする。

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までを振り返る。 全体 ・園児にとって、分かりやすく楽しい活動にするために、考える視点を確認する。 ○ 本時のめあてを確認する。 ・「もっと喜んでくれる」「もっと楽しい」交流会になるように考えを伝え合う。 ○ 練習の様子を画像で見合い、アドバイスを伝える。 ○ アドバイスを基に、準備することを考え、学習カードに記述する。 個人
(2) 他者と関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流会の準備をする。 グループ ・グループごとに、準備する内容を確認し、活動する。
(3) 考えを広げたり、深めたりする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りカードに活動の振り返りを記述する。 個人 ・振り返りの発表を行う。 全体

具体的な指導の工夫

(1)-① 課題の発見と設定

- ◆ 園児の気持ちを意識できるように、考える視点を明確に示す。
- ◆ 視点を基に練習の様子を画像で見ることで、具体的なアドバイスをさせる。
- ◆ アドバイスした内容を黒板に表示し、それを基に本時の活動の計画を立てることができるようにする。

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ アドバイスを基に、学習カードに交流会の活動計画を記述させる。

(2)-① 目的

- ◆ 各自が設定した本時の活動をグループ内で共有させ、どのように進めるか確認させる。

(2)-② 編成

- ◆ 園児に体験させたい内容の中から、実現できるものを話合いで決定し、児童の希望する活動ごとに、グループを編成する。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見

- ◆ 本時の活動を振り返らせる。
- ◆ 発表の際には、次時にどのような活動をしたいのかも考えて発表するように声を掛ける。

○ 音楽

小学校 第4学年 音楽 「いろいろな楽器の音の重なりを聴き合って合奏をしよう」（第3時／全7時間）

単元で育てたい能力

- ◇**知的能力【読み、書き、計算などの基礎・基本を基に考える力】**
 - ・楽器のもつ固有の音色やその響きの特徴を生かした楽器の演奏の仕方を身に付ける。
- ◇**社会的能力【自分と異なる他者を認識し、理解する力】**
 - ・主な旋律、副次的な旋律、低音、和音の四つのパートの役割や音量のバランスに気を付け、音の重なり合う響きのよさを感じ取って合奏できる。

前提となる知識・技能

- ・「茶色の小びん」を階名で歌ったり、主な旋律をリコーダーで演奏したりすることができる。
- ・低音パートを鍵盤ハーモニカやキーボードで演奏できる。

必然性のある課題（日常生活との関連など）

- ・音の響きを感じ取りながら、演奏する。

主体的・協働的な学習	
学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてを確認する。 ・木琴の演奏の仕方を知り、他のパートと合わせて演奏する。 ○ 合奏「茶色の小びん」を聴き、和音のパートの役割を捉える。 全体 ○ 和音のパートを木琴で演奏する。 グループ 個人 ・グループに分かれて、一人ずつ木琴で練習する。
(2) 他者と関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで演奏の仕方を教え合う。 ペア ・マレットの持ち方、打ち方 ・音板を打つ場所 ・リズム ○ 和音のパートと他のパートを組み合わせて演奏する。 全体 ・和音のパートが加わることで、曲の感じが変わることを確かめる。
(3) 考えを広げたり、深めたりする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りを行う。 個人 ・ワークシートに学習の記録を記入する。

具体的な指導の工夫

- (1)-① **課題の発見と設定**
 - ◆ 演奏から和音のパートを聴き取り、合奏での和音のパートの役割について理解させる。
- (1)-② **自分の考えの構築**
 - ◆ 和音のパートを木琴で演奏させ、どのように演奏したいかについて思いをもたせる。
- (2)-① **目的**
 - ◆ 必要な技能を身に付け、和音のパートの役割を考えさせながら、演奏させる。
- (2)-③ **役割・手順**
 - ◆ ペアで、練習とアドバイスを交代で行わせる。
- (2)-④ **表出から集約**
 - ◆ 視点を示し、アドバイスしやすくする。
 - ◆ よい練習の仕方を取り上げ、全体に紹介する。
- (3)-① **自分の考えの再構築**
 - ◆ 演奏や練習の仕方について、ワークシートに振り返る項目を設定し、できるようになったことや次時のめあてを記入させる。
 - ◆ 和音のパートと他のパートを組み合わせたときの曲の感じについて振り返らせる。

○ 体育

小学校

第6学年

体育

「ボール運動 ネット型 ソフトバレーボール」

（第6時／全7時間）

単元で育てたい能力

◇知的能力【読み、書き、計算などの基礎・基本を基に考える力】

- ・型に応じたボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームに生かしたり、作戦立案の際に役立てたりすることができる。

◇社会的能力【自分と異なる他者を認識し、理解する力】

- ・チームの特徴に応じた作戦に基づいて、ネット型の攻防を行うことを通して、ルールを守り、助け合って運動することができる。

前提となる
知識・技能

- ・サーブやレシーブ、パスなどの基本的なボール操作ができる。
- ・ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。
- ・ソフトバレーボールのルールを理解している。

必然性のある課題
（日常生活との関連など）

- ・ルールを守り助け合って運動に取り組み、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てることにより、ネット型のゲームで勝敗を競う。

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容
(1) 課題を 発見し、 考えを 構築する	○ ボール慣れを行う。 全体 ○ 作戦や個人のめあてを確認する。 ・ ゲームで勝敗を競うために自分のチームの特徴に応じた作戦や作戦に応じた個人の役割分担を確認する。 グループ 個人
(2) 他者と 関わる	○ チームで練習に取り組む。 ・ チームの作戦に応じた練習を行う。 ○ ゲーム1に取り組む。 グループ ○ ゲーム1を振り返る。 ・ 自分のチームの特徴に応じた作戦が、有効であったかどうかを振り返り、次のゲームに向けて作戦を修正する。 ○ ゲーム2に取り組む。 ○ ゲーム2を振り返る。 ○ ゲーム3に取り組む。
(3) 考えを 広げたり、 深めたり する	○ 学習の振り返りを行う。 ・ 自分のチームの特徴に応じた作戦を振り返るとともに、作戦に応じた個人の役割を達成できていたかを振り返る。また、次の学習に向けて、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたり、個人の役割を考えたりする。 グループ 個人

具体的な指導の工夫

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ 前時のゲームを振り返って考えた作戦や作戦に応じた個人の役割分担を確認させ、作戦に基づいて勝敗を競うゲームを実施する。

(2)-② 編成

- ◆ リーダーとなる児童をキャプテンとして配置し、様々な要素のバランスを考慮して、チーム編成をする。

(2)-① 目的

- ◆ 勝敗を競うゲームに取り組むことを通して、自分のチームの特徴に応じた作戦が有効であったかを振り返らせる。

(2)-③ 役割・手順

- ◆ ゲーム間に振り返りを入れることにより、作戦の有効性を話し合ったり、修正をしたりする時間を設定する。

(3)-② 振り返りを基にした更なる
課題の発見

- ◆ 一時間を通して、自分のチームの作戦が有効であったかを振り返らせ、次のゲームの作戦を考えさせる。

○ 道徳

小学校 **第4学年** **道徳** 「心と心の握手」【内容項目 思いやり・親切】
 （第1時／全1時間）

単元で育てたい能力

- ◇**知的能力【読み、書き、計算などの基礎・基本を基に考える力】**
 - ・ 相手を思いやり、すすんで親切にするためには、どのように対応することが望まれるかを判断する。
- ◇**社会的能力【自分と異なる他者を認識し、理解する力】**
 - ・ 相手を思いやる時に大切なことを考え、すすんで親切にしようとする心情をもつ。

前提となる知識・技能

・ 事前アンケートにおいて、自分のこれまでの経験から「親切にすること」について、一人一人があらかじめ考えられる。

必然性のある課題（日常生活との関連など）

・ 日常生活において、相手を思いやる行為をする際に、「親切にすること」の大切さを自覚する。

主体的・協働的な学習	
学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	○ 本時の学習でねらいとする道徳的価値について確認する。 全体 ・ 「相手を思って親切にするときに大切なこと」について考えることを確認する。
(2) 他者と関わる	○ 資料「心と心の握手」を読んで、話し合う。 ・ 資料に登場する「ぼく」が、近所のおばさんに二度、親切にした話について「ぼく」の心情を考える。 全体 ○ 資料に登場する「ぼくがした二つの親切から、親切にするときに大切なこと」について考える。 ・ グループで各自の考えを発表し合う。 ・ 他のグループの人の考えを聞く。 ・ 全体に発表する。 グループ 全体
(3) 考えを広げたり、深めたりする	○ 学習を振り返る。 ・ 「相手を思って親切にするときに大切なこと」について考え、ワークシートに記入して、発表する。 個人 全体 ○ 親切に関する教師の詩の朗読を聞く。 全体

具体的な指導の工夫

(1)-① 課題の発見と設定
 ◆ 事前に、児童に実施した「親切にすること」についてのアンケート結果を基に、課題を設定する。

(2)-④ 表出から集約
 ◆ ねらいに深く関わる中心的な発問に関して考えたことを、ワークシートに記入させる。
 ◆ 他のグループの児童と互いの考えを伝え合うことにより、多様な見方や考え方に触れさせる。

(3)-① 自分の考えの再構築
 ◆ 「相手を思って親切にするときに大切なこと」について、学習を通して初めて分かったことや心に残ったことをワークシートに記入させる。

○ 外国語活動

小学校 第6学年 外国語活動 「何を食いたい？入国審査にチャレンジ」
（第4時／全6時間）

単元で育てたい能力

◇知的能力【身の回りの自然などへの知的好奇心や探究心】

- ・外国人とのコミュニケーション場面を意識し、食いたい物、行きたい国など興味のあるものを英語で表現しようとする。

◇社会的能力【学習したことを日常生活との関わりで考える力】

- ・身近にある英語を活用したコミュニケーションに慣れ親しむことができる。

前提となる
知識・技能

- ・世界の国々の名前や有名な食べ物の単語について理解している。
- ・行きたい国やその理由を尋ねる表現について理解している。

必然性のある課題
（日常生活との関連など）

- ・「入国審査ゲーム」を通して、英語の表現に慣れ親しむ。

主体的・協働的な学習

具体的な指導の工夫

学習過程	活動内容
(1) 課題を 発見し、 考えを 構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を想起し、世界の国名を発音する。 ○ 世界各国の有名な食べ物の英語での言い方に慣れ親しむ。 個人 ○ 食いたい物を言いたいときの表現に慣れ親しむ。(例)I want to eat ～. ○ 会話の表現に慣れ親しむ。 <p>A : Where do you want to go? B : I want to go to ～. A : Why? B : Because I want to eat ～.</p>
(2) 他者と 関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「入国審査ゲーム」に取り組む。 ペア ・前後半に分けて、入国審査官役と旅行者役が英語で会話をする。 ・教室内に異なる六か国のブースを設定する。 ・旅行者は自由にブースを回って、その国と食べ物を英語で言い、入国審査官に国旗のシールをもらう。
(3) 考えを 広げたり、 深めたり する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを行う。 個人 ・興味をもったことや気付いたことだけでなく、次の学習で頑張りたいことについても学習カードに記入する。

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ 前時に学習した国名や本時で学習する世界の国々の有名な食べ物の言い方に慣れ親しませる。

(2)-① 目的

- ◆ 「入国審査ゲーム」に必要な会話表現を行い、英語を活用したコミュニケーションに慣れ親しませる。

(2)-③ 役割・手順

- ◆ 旅行者役として、自分の「行きたい国」や「食いたい物」を、英語で表現させる。
- ◆ 入国審査官役として、相手の「行きたい国」などについて、英語で尋ねさせる。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見

- ◆ 日常生活において、学習した英語の表現を活用できる場面について考えさせる。その上で更なる課題を設定させる。

○ 総合的な学習の時間

小学校 第4学年 総合的な学習の時間 「多摩の過去から現在、そして未来へ！
—私たちの町を見続けた平久保のシー—
(第11時／全40時間)

単元で育てたい能力

◇知的能力【身の回りの自然などへの知的好奇心や探究心】

- ・身近な地域の昔の様子を調べ、地域の有名な文化財を伝える活動を通して、自ら設定した課題を解決することができる。

◇社会的能力【学習したことを日常生活との関わりで考える力】

- ・身近な地域の課題を解決することで、他の地域の文化財についても自ら課題を見付けることができる。

前提となる
知識・技能

- ・身近な地域の昔の様子について理解している。
- ・身近な地域には、東京都の文化財があることを理解している。

必然性のある課題
(日常生活との関連など)

- ・自分たちが住んでいる地域の歴史や文化、自然などについて調べたことを基に、地域の文化財について身近な地域の方々へ伝える。

主体的・協働的な学習

具体的な指導の工夫

学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	○ 前時までの学習を振り返る。 全体 ○ 地域の文化財を広めるための取組について自分なりの考えをもつ。 個人
(2) 他者と関わる	○ 地域の文化財を広めるための具体的な取組について話し合う。 ・短冊を用いて、多様なアイデアを分類したり関連付けたりする。 グループ ○ グループで出た取組を発表し、今後の取組について全体で話し合う。 全体 ・学習の順序性を理解する。
(3) 考えを広げたり、深めたりする	○ 学習を振り返る。 ・全体で話し合ったことを基にして、振り返りカードに、今後の学習の見通しを記入する。 個人

(1)-① 課題の発見と設定
◆ これまで取り組んできたことを想起することにより、今後の学習についての具体的な案や見通しをもたせる。

(1)-② 自分の考えの構築
◆ 全員に自分の考えをもたせてから、話し合いを行うことで一部の児童の考え、発言だけにならないようにする。

(2)-① 目的
◆ よりよい解決方法を導き出すため、他者の考えを聞き、多様なものの見方や考え方を広げられるようにする。

(2)-④ 表出から集約
◆ グループの考えを掲示し、短冊を並び替えて、学習の進め方を全体で共有する。

(3)-① 自分の考えの再構築
◆ 児童の意見を板書で整理し、可視化する。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見
◆ 振り返りカードを活用することで、学習前と学習後の考えがどのように変わったかを確認できるようにする。

○ 特別活動

小学校 第2学年 特別活動 「2年1組の歌の歌詞を作ろう」
(第2時/全4時間)

単元で育てたい能力

- ◇知的能力【身の回りの自然などへの知的好奇心や探究心】
 - ・学級目標を意識し、どんな学級をつくりたいかが分かる言葉を考えることができる。
- ◇社会的能力【学習したことを日常生活との関わりで考える力】
 - ・全員が納得して「歌に入れる言葉」を決めることができる。
 - ・仲良く助け合いながら話し合いを進めることができる。

前提となる
知識・技能

- ・意見の発表の仕方を理解している。
- ・歌詞に入れたい言葉を考えられる。
- ・学級の歌の基となる曲(「もりのくまさん」)を理解している。

必然性のある課題
(日常生活との関連など)

- ・協力して学校生活を送るために、学級目標を意識して、学級の歌を作る。

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	○ 議題・提案理由・話し合いのめあてを確認する。 全体 議題：「2年1組の学級の歌を作ろう」 提案理由：2年1組の学級の歌を作って、学級みんなが、もっと協力して学級目標に近付けるようにしたいから。 話し合いのめあて：理由を伝えよう。
(2) 他者と関わる	○ 学級全体で話し合う。 全体 柱1：どんな言葉を入れるかを決める。 ・事前に挙げられている言葉の中から、歌詞に入れる言葉について話し合う。 柱2：どのように歌詞を作るかを決める。 ・決まった言葉を使って、どのように歌詞を作るか話し合う。
(3) 考えを広げたり、深めたりする	○ 話し合いを振り返る。 個人 ・振り返りカードを記入する。 ・振り返りを発表する。 ○ 教師の終末の助言を聞く。 全体

具体的な指導の工夫

(1)-② 自分の考えの構築
◆ 「学級会カード」には、事前に歌詞に入れたい言葉を考えて記入させておく。

(1)-① 課題の発見と設定
◆ 何のために話し合うのかを理解して取り組ませる。
◆ 提案理由を理解させ、話し合いのめあてを確認させる。

(2)-③ 役割・手順
◆ 司会グループとは事前に打ち合わせを行い、話し合いの柱や進行についての指導・助言をする。

(2)-④ 表出から集約
◆ 発言者の意見には、理由を付け加えさせ、全員が納得する言葉を決める際の基準にする。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見
◆ 「学級会カード」に話し合いの振り返りを記入させる。
◆ 話し合い活動の様子や、児童の振り返りを基に、成長が見られたり友達のことを考えたりしている言動や司会グループの工夫等について、教師が称賛・助言する。

中学校

○ 国語

中学校

第1学年

国語

「話題を捉えて話し合おう」

(第4時/全4時間)

単元で育てたい能力

◇知的能力【習得した知識・技能を基に、実行可能な取組を考える力】

・意見をまとめるために必要な観点を理解し、意見を整理することができる。

◇社会的能力【理論を構築し、筋道立てて課題を解決する力】

・話し合いの流れとルールに沿って、他者の考えと自分の考えをすり合わせながら、課題の解決を進めることができる。

前提となる
知識・技能

・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて、話すことができる。

必然性のある課題
(日常生活との関連など)

・生徒の日常生活に関する話題について、適切に捉えて、話し合いをする。

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	○ 前時を振り返り、課題を確認する。 ・前時に学習した、意見をまとめるために必要な観点を確認する。 全体 ・話し合いの流れとルールについて、ワークシートで確認する。 個人 ・「日常生活に関する話題について話し合い、グループの意見をまとめる」という課題を確認する。
(2) 他者と関わる	○ 日常生活に関する話題について、グループで話し合いを行う。 ・グループで話し合い、話題に対する結論をまとめる。 グループ ・意見をまとめるために必要な観点に基づき、他グループの話し合いを評価する。 ○ グループの話し合いの結論を紙に書き、黒板に貼る。 グループ ○ グループの話し合いの結論について、根拠に基づいて自分の意見を発表する。 全体
(3) 考えを広げたり、深めたりする	○ 学習を振り返る。 ・本時の学習を振り返り、グループの意見をまとめるために、必要だと感じたことを振り返りシートに記入する。 個人

具体的な指導の工夫

(1)-① 課題の発見と設定

- ◆ 「話し合いで意見をまとめることは難しい」という経験を想起させ、話し合いを進める方法を学ぶ必然性を生徒にもたせる。
- ◆ 共通の話題で話し合い、話題に対するグループの意見をまとめるという見通しをもたせる。

(2)-② 編成

- ◆ 話し合いを客観的に捉えさせるための他者評価を行えるようなグループ編成をする。

(2)-④ 表出から集約

- ◆ 話題に対する自分の考えとその根拠を、グループ内で説明させる。
司会者を中心にして、各自の考えを整理させ、グループの意見として結論をまとめさせる。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見

- ◆ 話し合いの流れとルールを振り返りシートで確認させ、話し合いの進め方を他の学習場面でも活用できるようにする。

○ 社会

中学校 第1学年 社会（地理的分野）「世界各地の人々の生活と環境」

（第2時／全10時間）

単元で育てたい能力

◇知的能力【習得した知識・技能を基に、実行可能な取組などを考える力】

- ・寒帯で暮らす人々の生活や日本の自然的条件に適した生活と関連付けて、冷帯で暮らす人々の生活について自分の考えをもち、表現する。

◇社会的能力【他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する力】

- ・冷帯で暮らす人々の生活について他者と検討したことを基に、様々な自然的条件に適した人々の生活を考察する。

前提となる知識・技能

- ・雨温図などの統計資料の読み取り方を理解している。
- ・雪と氷の中で暮らす寒帯に適した生活について理解している。
- ・日本の寒い地方で暮らす人々の生活について理解している。

必然性のある課題（日常生活との関連など）

- ・冷帯で暮らす人々の生活と自分たちの生活との違いを理解する。
- ・寒帯と冷帯の相違点に気付かせ、区別の仕方を身に付ける。

主体的・協働的な学習

具体的な指導の工夫

学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	○ 課題を把握し、自分の考えをもち。 ・シベリアの地理的な位置や雨温図から気候の概要を把握し、人々がどんな生活をしているかを調べ、寒帯や日本の生活と比較して考えたことをまとめる。 個人
(2) 他者と関わる	○ グループで検討する。 ・シベリアの人々の生活について調べたことや考えたことを、グループで発表し、他者と自分の考えとの共通点や相違点についてまとめる。 グループ ○ グループでまとめたことを学級全体で発表する。 全体 ○ 各グループの発表を比較したり関連付けたりして、シベリアで暮らす人々の生活についてまとめる。 全体
(3) 考えを広げたり、深めたりする	○ 学習を振り返る。 ・冷帯で暮らす人々の生活を、自分の言葉でまとめ直す。 個人 ○ 寒帯や冷帯の他に、気候の特色に適した生活について考える。 ・熱帯、温帯で暮らす人々の生活について考える。 個人

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ 寒帯と冷帯の気候やシベリアと日本の寒い地方の気候を比較させることで、気候の特色と人々の生活について、自分の考えをもたせる。

(2)-① 目的

- ◆ 他者と自分の考えを比較させ、他者の考えのよさを取り入れて、自分の考えの再構築につなげる。

(2)-④ 表出から集約

- ◆ 自分で調べたことや考えたことを各グループで発表させ、グループや全体で共有することにより、自分の考えを再構築していくことにつなげる。

(3)-① 自分の考えの再構築

- ◆ 全体で共有した情報を基にして、自分で調べたことや考えたことを、もう一度、自分の言葉で整理させる。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見

- ◆ 人々が自然的条件に適した生活をしていることに着目させ、熱帯や温帯で暮らす人々の生活について考えさせる。

○ 数学

中学校

第3学年

数学

「相似な図形」

(第9時／全20時間)

単元で育てたい能力

◇知的能力【複数の学習内容の関連性を見いだす力】

・三角形における平行線と線分の比の性質について、三角形の相似条件を用いて証明できる。

◇社会的能力【理論を構築し、筋道を立てて課題を解決する力】

・三角形における平行線と線分の比の性質について他者と検討したことを基に、三角形における平行線と線分の比の性質を説明することができる。

前提となる
知識・技能

- ・相似な図形の性質を理解している。
- ・三角形の相似条件を理解している。
- ・三角形の相似条件を利用して、図形の性質を証明することができる。

必然性のある課題
(日常生活との関連など)

- ・三角形における平行線と線分の比に関する定理を自ら導き出し、証明することにより論理的に裏付ける。

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容
(1) 課題を 発見し、 考えを 構築する	○ 課題を把握する。 ・前時に学習した三角形における平行線と線分の比の性質を説明する。 個人 ○ 自力解決する。 ・三角形における平行線と線分の比の性質について、他者に説明するための文章を簡潔にまとめる。 個人
(2) 他者と 関わる	○ グループで発表し合う。 ・自分でまとめた文章を基にして、三角形における平行線と線分の比の性質について、グループで発表し合う。 グループ ○ 全体で共有し、まとめる。 ・グループで発表し合ったことを全体で共有し、それぞれの説明を比較したり、関連付けたりして、三角形における平行線と線分の比の性質をまとめる。 全体
(3) 考えを 広げたり、 深めたり する	○ 学習を振り返る。 ・自分の説明をまとめ直す。 個人 ○ 次時の学習の見通しをもつ。 ・三角形における平行線と線分の比の性質を用いて、線分の長さを求める見通しをもつ。 全体

具体的な指導の工夫

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ 三角形における平行線と線分の比の性質について、三角形の相似条件を用いて証明したことを活用して、他者へ説明する文章を作成させる。

(2)-① 目的

- ◆ 自分の考えを他者に伝えることにより、三角形における平行線と線分の比の性質について理解を深めさせる。

(2)-④ 表出から集約

- ◆ 自分で考えた150文字程度の説明を基にグループで発表させ、自分と他者との説明を比較したり、関連付けたりさせる。発表後に、数名の生徒の説明を例にして、三角形における平行線と線分の比の性質について、全体で共有させる。

(3)-① 自分の考えの再構築

- ◆ グループで発表し合ったり、全体で共有したりしたことを基に、最初に自分で考えた説明を、再度自分の言葉で修正させる。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見

- ◆ 三角形における平行線と線分の比の性質を活用できる場合を考えさせる。

○ 理科

中学校

第2学年

理科

「動物のくらしやなかまと生物の変遷」

(第37時／全38時間)

単元で育てたい能力

◇知的能力【複数の学習内容の関連性を見いだす力】

・骨格や運動の特徴と進化の過程を関連付けて、イルカの進化の過程について推論する。

◇社会的能力【理論を構築し、筋道を立てて課題を解決する力】

・一人一人の意見を出し合い、グループでより説得力のある根拠に基づいた説をまとめる。

前提となる
知識・技能

・無脊椎動物と脊椎動物の分類、呼吸、子の殖やし方、骨格などの特徴、脊椎動物の進化、相同器官、生物の進化について理解している。

必然性のある課題
(日常生活との関連など)

・動物の分類の学習において、分類がはっきりしないと生徒が感じた動物について取り上げ、骨格や運動の特徴と進化について関連付けて考察する。

主体的・協働的な学習

具体的な指導の工夫

学習過程	活動内容	具体的な指導の工夫
(1) 課題を発見し、考えを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題を確認する。 ・イルカの進化について、イルカの特徴を基に説を立てる。 全体 ○ 既習事項を確認する。 ・イルカの哺乳類としての特徴をサメと比較して確認する。 ○ イルカの進化について、自分の考えをまとめる。 個人 	<p>(1)-① 課題の発見と設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 単元の学習の中で、生徒が興味・関心をもった動物を課題として設定する。 ◆ 学習したことを基に、イルカがどのように進化したのかを考え、生物の進化についての見方や考え方を育てることが出来る課題を設定する。
(2) 他者と関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ イルカの進化について、グループの説をまとめる。 グループ ○ イルカの進化について、グループで考えた説を発表する。 全体 	<p>(1)-② 自分の考えの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ワークシートを活用し、根拠を明確にして自分の考えを記述させる。 <p>(2)-① 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ イルカの進化について、根拠に基づいた、説得力のある説を考えさせる。 <p>(2)-② 編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 意見交換ができるよう、3～4名でグループを編成する。
(3) 考えを広げたり、深めたりする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が考えた説を振り返り、加筆修正する。 個人 ・イルカの進化についての説を代表者が発表する。 	<p>(2)-④ 表出から集約</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ホワイトボードに考えを記述させ、代表者に発表させる。 ◆ ホワイトボードに記載された内容が全員に見えるように大型モニタに映し出す。 <p>(3)-① 自分の考えの再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 他のグループの発表を聞き、自分の説を振り返らせる。 ◆ 教師は、イルカの進化について多角的に考察したことに対しての価値付けを行う。

○ 音楽

中学校

第2学年

音楽

「声部の役割を理解して、主旋律を生かした豊かな合唱表現を追求してみよう」

（第5時／全6時間）

単元で育てたい能力

◇ 知的能力【習得した知識・技能を基に、実行可能な取組などを考える力】

・曲にふさわしい呼吸の仕方や強弱の表現を工夫し、思いや意図をもって合唱する。

◇ 社会的能力【他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する力】

・各パートの役割と全体の響きとの関わりを理解し、表現を工夫して合唱する。

前提となる
知識・技能

- ・強弱や速度の変化を生かした表現ができる。
- ・呼吸の仕方と強弱の変化の関係を理解している。

必然性のある課題
（日常生活との関連など）

- ・合唱コンクールに向けて、個人の意図や思いを共有し、学級でまとまりのある合唱にする。

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容
(1) 課題を 発見し、 考えを 構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発声練習をする。 ○ ブレスの位置を確認し、全体で『予感』を合唱する。 全体 ○ 息継ぎが必要なフレーズを取り上げ、クレッシェンドを表現するために呼吸を工夫する。 <p>・ワークシートに呼吸の速さと量を記入する。 個人</p>
(2) 他者と 関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ クレッシェンドの表現と呼吸の仕方について話し合う。 ・パートごとに呼吸の速さと量についての考えを交流する。 グループ ○ 呼吸の速さと量を確認しながら、パートごとに練習する。 グループ ○ 各パートの歌い方を聞き合う。 全体 ○ クレッシェンドの表現についてパートで確認する。 グループ ○ 全体で合唱する。 全体
(3) 考えを 広げたり、 深めたり する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次回の練習のポイントを記述する。 ・ワークシートに記入する。 個人

具体的な指導の工夫

(1)-① 課題の発見と設定

- ◆ 呼吸の仕方を確認させ、クレッシェンドの表現に気を付けて、合唱させる。

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ クレッシェンドを表現するために、呼吸の速さと量の工夫を、ワークシートに記入させる。

(2)-① 目的

- ◆ クレッシェンドの表現の仕方について話し合わせ、パート内でそろそろよう指導する。
- ◆ 呼吸の速さと量について、基準を4段階で示す。

(2)-④ 表出から集約

- ◆ パート内で呼吸の仕方について共通理解を図り、実際に歌うことで確かめさせる。
- ◆ クレッシェンドの表現を聞き合うことで、他のパートと表現を調整させる。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見

- ◆ クレッシェンドの表現について、呼吸の速さや量を基に振り返り、パートの表現と全体の表現について整理させる。

○ 保健体育

中学校 第2学年 保健体育 「体づくり運動 体力を高める運動」
 （第4時／全8時間）

単元で育てたい能力

- ◇**知的能力【習得した知識・技能を基に、実行可能な取組などを考える力】**
 - ・体力を高める運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
- ◇**社会的能力【他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する力】**
 - ・友達と共に運動に取り組み、助言や補助を通して友達の動きからよさや課題を発見し、自分の体力を高める方法にも生かすことができるようにする。

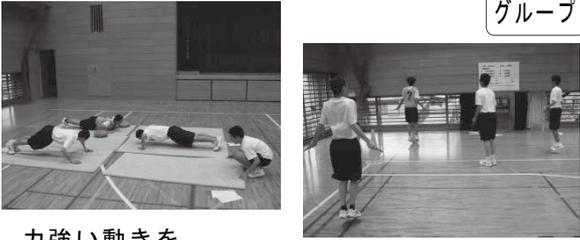
前提となる
知識・技能

- ・「体力を高める運動」の目的を理解している。
- ・高める体力は、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力の四つに分かれることを理解している。

必然性のある課題
（日常生活との関連など）

- ・体力テストの結果から、自己の体力について把握し、課題となる体力を見付ける。

主体的・協働的な学習

学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	○ 体力を高める運動において、運動強度や回数、負荷などの課題を、各自が設定する。 個人
(2) 他者と関わる	○ グループごとに、四種類の運動をローテーションして、全ての運動に取り組む。一人一人がグループの皆と協力し、自己の課題に基づいて運動をする。 グループ  力強い動きを高めるための運動 巧みな動きを高めるための運動
(3) 考えを広げたり、深めたりする	○ 学習を振り返る。 ・運動に取り組んだ成果と課題を文章で記述する。 個人 ○ 次時の学習の見通しをもつ。 ・単元後半に向けて、より自己の課題に合った運動を選択する。 全体

具体的な指導の工夫

- (1)-① 課題の発見と設定
 - ◆ 体力テストの結果から自己の体力の課題を発見させ、本時で行う運動についての目標値を設定させる。
- (2)-② 編成
 - ◆ リーダーとなる生徒を事前に決めて、グループを編成する。
- (2)-④ 表出から集約
 - ◆ グループで動き方のアドバイスを、計測、補助等の役割を分担させ、協力して運動に取り組ませる。
時間を区切って四種類の運動をローテーションさせる。
ICT機器を活用し、動きを映像で確認させる。
- (3)-① 自分の考えの再構築
 - ◆ 授業で高まった体力及び課題である体力について、文章で表現させることで、具体的に振り返らせる。
- (3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見
 - ◆ 単元前半では、全ての運動を扱うこととし、それを基にして、より自己の課題に合った運動を選択させる。

○ 技術・家庭（技術）

中学校 第1学年 技術・家庭（技術）A材料と加工に関する技術「構造を考える」
（第5時／全10時間）

単元で育てたい能力

- ◇**知的能力【習得した知識・技能を基に、実行可能な取組を考える力】**
 - ・目的や条件に応じて、製作品に必要な構造を工夫することができる。
- ◇**社会的能力【理論を構築し、筋道立てて課題を解決する力】**
 - ・製作品の構造について、より強くする技術を学び、より強くするための方法を考えることができる。

- 前提となる知識・技能**
- ・木材を組み立てて製作品を作ることができる。
 - ・構造体に加わる力の方向や大きさについて理解している。
- 必然性のある課題（日常生活との関連など）**
- ・生徒の周辺にある家や家具などの製作品に使われている「製作品を強い構造にする仕組み」をこれから組み立てる製作品に役立てる。

主体的・協働的な学習

具体的な指導の工夫

学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目標を確認する。 全体 ・生徒自身が製作品を工夫し、強い構造をもった製作品にする。 ○ 課題を確認する。 ・どのような工夫をしたら、より強度が強い製作品になるかを考える。 ○ 自分の考えをもつ。 ・ワークシートに記入する。 個人
(2) 他者と関わる	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで話し合う。 グループ ・グループ内のそれぞれの考えを伝えて、新たな考えを違う色の筆記用具でワークシートに書き込む。 ○ 発表する。 ・グループのメンバーの考えが出そろったところで、よりよいアイデアを、話し合って考えていく。
(3) 考えを広げたり、深めたりする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 考えたことをまとめ、発表する。 ・グループで出たよりよいアイデアについて、ワークシートに記入する。 個人 ・グループでまとめた内容を発表する。 ○ 学習を振り返る。 全体 ・学んだ内容をワークシートに書く。 個人

(1)-① 課題の発見と設定

- ◆ 強い構造をもった作品を作る工夫を理解させ、自分の作品の強度を高めることにつなげる。

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ 紙パックをピンでつないで、正方形を作り、作った正方形が崩れないように、もう一枚の紙パックをどのように加えたらよいかを個人で考えさせ、ワークシートに記入させる。
- ◆ 紙パックを輪切りにしたものを使って、つぶれない工夫をワークシートに記入させる。

(2)-③ 役割・手順

- ◆ 3人から4人のグループで、司会を中心に話し合いをさせる。
- ◆ 話し合いが進まないグループには、教師が助言する。

(2)-④ 表出から集約
(3)-① 自分の考えの再構築

- ◆ 全員に発表させ、根拠を述べさせる。全員の意見を共有させた後、よりよいアイデアについて話し合わせ、考えたことをワークシートに記入させる。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見

- ◆ 本時のアイデアを、自分の製作品にどう取り入れていくかについて、記入させる。

○ 道徳

中学校 第2学年 道徳 「ネパールのビール」【内容項目 よりよく生きる喜び】
(第2時/全2時間)

単元で育てたい能力

◇知的能力【習得した知識・技能を基に、実行可能な取組を考える力】

- ・人間の心の弱さに打ち克ち、人間として誇りある生き方を見いだすためには、どのように対応することが望まれるかを判断する。

◇社会的能力【他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する力】

- ・人間の気高く生きようとする心を理解し、人間として誇りある生き方を見いだそうとする心情をもつ。

前提となる知識・技能

- ・資料（教材）「ネパールのビール」を読み、心に残った部分を個人で挙げた後、グループで意見を共有できる。
- ・学級で共有したい意見を理解している。

必然性のある課題
(日常生活との関連など)

- ・周囲に流されて自分の意志とは違う行動をしてしまい、思い悩んでしまう自分の弱さを克服し、人としてよりよく生活しようとする。

主体的・協働的な学習

具体的な指導の工夫

学習過程	活動内容
(1) 課題を発見し、考えを構築する	○ 前時を振り返り、課題を把握する。 ・前時にまとめた短冊を黒板に掲示する。 ・似たような意見で、短冊を並べ替える。 ・「作者の行動や気持ち」についての意見が書かれた短冊があることを確認し、「作者の行動や気持ち」を一単位時間の学習で話し合うことを確認する。 全体
(2) 他者と関わる	○ ねらいに深く関わる中心的な発問である「チェトリ少年の肩を抱いて泣いた作者は、その後、チェトリ少年にどのような言葉をかけたでしょうか。」について考える。 個人 ・自分の考えをワークシートに書く。 ・グループで話し合い活動を行い、意見を共有する。 グループ ・グループで共有した意見を、代表者が全体に発表する。 全体
(3) 考えを広げたり、深めたりする	○ 学習を振り返る。 ・本時に学習したことを通して、発問「これからあなたは、どのように生きていきたいですか。」に対する考えをワークシートに記入する。 個人

(1)-② 自分の考えの構築

- ◆ 前時に資料（教材）を読み、登場人物の生き方に対する自分の意見をあらかじめもたせておくことで、より深く資料（教材）に向き合えるようにする。

(1)-① 課題の発見と設定

- ◆ 生徒から出た意見を基に、話し合う課題を設定する。

(2)-③ 役割・手順

- ◆ 司会を決め、4人グループで意見を共有する。参考になった意見はワークシートにメモをさせる。

(2)-④ 表出から集約

- ◆ 話し合いで出た意見のうち、全体へ発表したいものを短冊に記入し、発表させる。

(3)-② 振り返りを基にした更なる課題の発見

- ◆ 学習したことを手掛かりに、今後、どのように生きていくことが望ましいかを考えさせることで、道徳的実践意欲と態度を養う。

第5 研究の成果と今後の取組

1 研究の成果

(1) 「各校種に応じて育む能力」の例の作成

子供たちに求められている「変化の激しい時代を生き抜く能力」を、「知的能力」と「社会的能力」との二つの能力に分けて、「知的能力」と「社会的能力」という視点から小学校・中学校・高等学校の「各校種に応じて育む能力」の例と、それらの能力を育成するための指導法の例を整理し、『各校種に応じて育む能力』の例としてまとめた（p. 61 表1）。併せて、「各校種に応じて育む能力」を育成するために児童・生徒・学生に取り組みさせる課題の例と、課題の設定における条件を検討し、どのような学習方法で、何を身に付けさせるのか、などのことを考える際の一つのモデルを示した。

(2) 『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧』の作成

(1)の能力を育成するためには、課題の発見と解決に向けた「主体的・協働的に学ぶ学習」を各教科等で適切に実施し積み重ねていくことが必要である。そのため、学習過程に沿って授業を三つの段階に分け、それぞれの段階における「指導の工夫の観点」を構想した『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧』を作成した（p. 63 表2）。

(3) 小学校・中学校における「主体的・協働的な学習」の実践事例の作成

(1)、(2)を踏まえて、東京教師道場の授業研究を活用し、実践に基づく小学校・中学校における各教科等の実践事例を作成した（pp. 64-81）。実践事例の内容については、「『主体的・協働的な学習』を行う前提条件と目的」（p. 63 図1）に合わせて、「単元で育てたい知的能力と社会的能力」、「前提となる知識・技能」、「必然性のある課題」を示すとともに、「主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧に併せて、段階1、段階2、段階3の三つの段階ごとの「具体的な指導の工夫」を示した。

2 今後の取組

(1) アクティブ・ラーニングを取り入れた研修の実施

本研究の成果を活用し、来年度の各研修にアクティブ・ラーニングを取り入れるなど、「主体的・協働的な学習」の視点に立った研修を実施する。

(2) 「都教委訪問モデルプラン」を活用した研究内容の普及・啓発

平成28年度より、都教委訪問モデルプランとして「主体的・協働的な学習に関する研修」を位置付けた。本モデルプランに関しては、次のような研修内容を設定している。

- ・主体的・協働的な学習（いわゆるアクティブ・ラーニング）の基本的な考え方
- ・具体的な実践事例の紹介
- ・学習指導案への位置付け方（演習）

今後、要請に応じて区市町村教育委員会や学校に訪問し、本研究の研究内容や、「主体的・協働的な学習」の活用方法について普及・啓発を図る。

(3) 高等学校の実践事例の作成

指導部の「アクティブ・ラーニング推進校」事業と連携し、小学校・中学校における『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧』などを活用した実践研究を行いながら、高等学校における各教科等の実践事例もまとめていく。

<資料>

変化の激しい時代を生き抜く能力の育成

～子供たちが課題の発見と解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習指導の在り方～

これからの社会や企業が求めている能力

- 思考力・判断力・表現力等の能力
や自ら学習に取り組む態度
- 課題解決において思考の基盤
となる基礎学力や教養

知的能力

- チームで協力して課題を解決
する合意形成能力
- 意見等を論理的に述べて課題
を解決していく論理的思考力

社会的能力

上記の能力が必要とされる背景

- ◇ グローバル化や技術革新の波が急速に押し寄せ、膨大な情報から課題を発見して設定し、その解決策を見いだすことは容易ではない。
- ◇ 単純に先行モデルを模倣して成功する時代ではない。



- 課題解決の策は、他者との関わりの中で見付かることが多い。
- 課題解決に当たっては、一人でできることは限られており、他者との協働、チームワークが不可欠になる。
- 思考力・判断力・表現力等の能力や主体的に学習に取り組む態度、課題解決の基盤となる基礎学力や教養も欠かせないものである。

変化の激しい時代を生き抜いていくために…

自分で課題を解決しようとする
主体的な学習

他者と協働して課題を解決する
協働的な学習

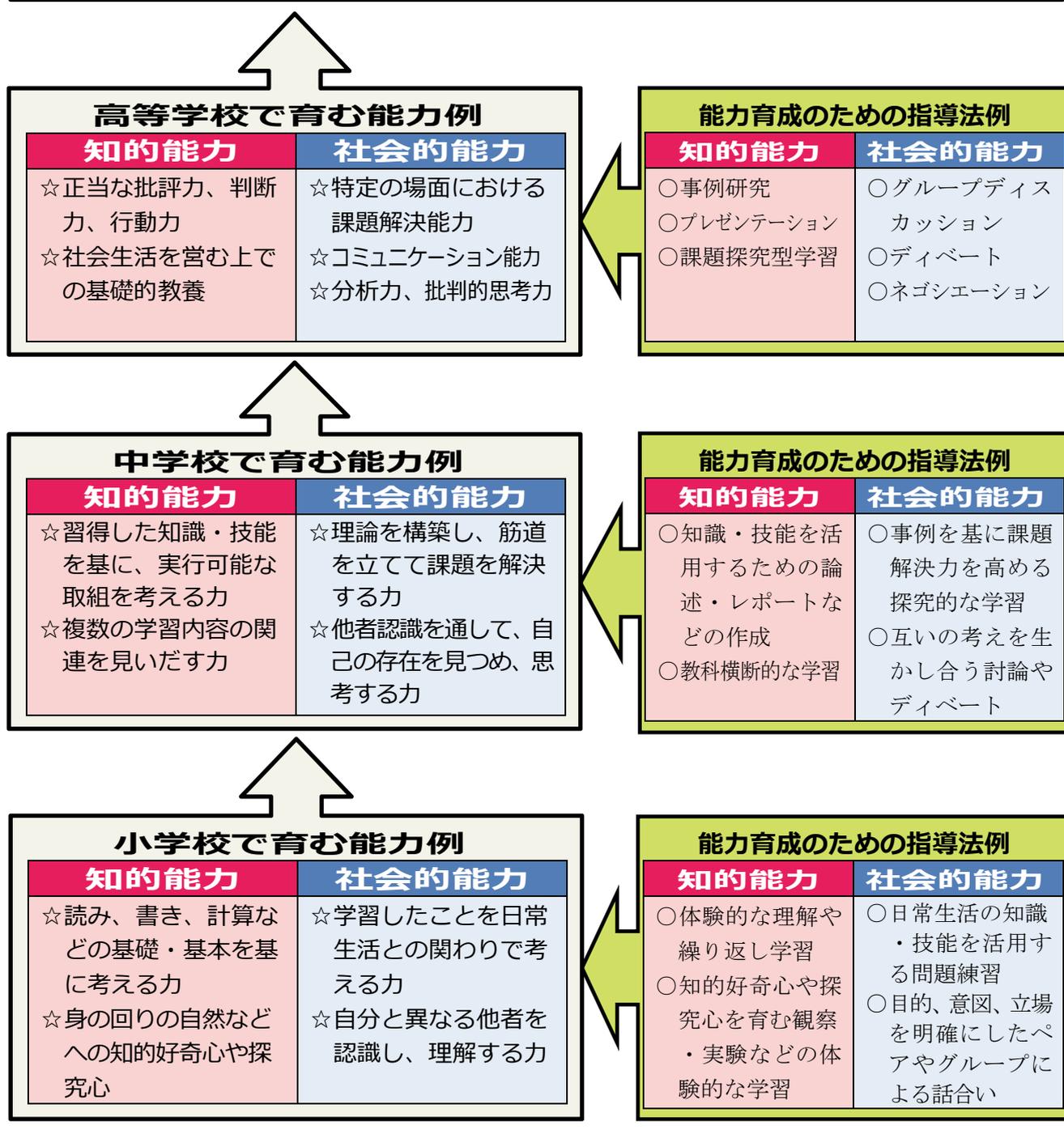
「主体的・協働的な学習」の更なる展開

- ★ 大学教育への円滑な接続に向け、小学校、中学校、高等学校の各校種に応じて身に付けさせる能力を明確にし、その能力を育成するために、各教科等の「主体的・協働的な学習」を更に充実させる。

大学教育への円滑な接続に向け、小学校・中学校・高等学校の各校種において、「知的能力」と「社会的能力」という二つの視点から「各校種に応じて育む能力」を整理し、それぞれの能力の例を設定した。さらに、それらの能力を育成するための指導法の例をまとめた。

中央教育審議会大学分科会大学教育部会審議まとめ「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（平成 24 年）には、大学教育の直面する大きな目標として、『生涯学び続け、どんな環境においても“答えのない問題”に最善解を導くことができる能力』を育成すること」が示されており、「大学においては、『答えのない問題』を発見してその原因について考え、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力を鍛えること」については、学生が自らの人生を切り拓くための最大の財産であることとともに、「産業界や地域が、今求めている人材」については、生涯学ぶ習慣や主体的に考える力をもち、予測困難な時代の中で、どんな状況にも対応できる多様な人材であることが示されている。

また、生涯学ぶ習慣や主体的に考える人材を育成するための質の高い教育として、「教員と学生が意思疎通を図りつつ、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修（アクティブ・ラーニング）によって、学生の思考力や表現力を引き出し、その知性を鍛える双方向の講義、演習、実験、実習や実技等の授業を中心とした教育である。」と示されている。



「各校種に応じて育む能力」を育成するために児童・生徒・学生に取り組みさせる課題の例を設定した。

【「各校種に応じて育む能力」を育成するための課題例】

◆大学の課題例（平成27年4月9日 平成27年度教育施策連絡協議会資料）

○風力発電用風車の「設置条件」について考察せよ。（グループディスカッション）

（解答例）①風が強いこと、②風車の搬入路が確保できること、③大型の風車を運ぶ為には幅員5m以上の道が必要であること、④送電線が近くにあること など

○風力発電用風車の「ブレードの形状」について考察せよ。（グループディスカッション）

（解答例）ブレードの先端は速度が速い。先端の幅が狭いほど空気抵抗は小さくなるので回転には有利である。 など

* 機械工学の基本的な知識を応用して構造や機能を分析・考察する能力を調べる課題

◆高等学校の課題例（文部科学省高大接続システム改革会議（第9回）配布資料（平成27年12月22日）入学希望者学力評価テスト（仮称） 記述式問題のイメージ例（国語））

○（公立図書館に関し、その現状と課題の他、若者の自立・社会参画支援を推進する場、家庭教育支援のための場、地域の人たちの対話や交流の場としての試みなど今後の公立図書館の可能性等について記した1,400字程度の新聞記事を読んで答える問題）今後の公立図書館の在るべき姿について、あなたはどのように考えるか。200字以上、300字以内で書くこと。（記述式問題）

（解答例）今後の公立図書館は、「地域の人たちの対話や交流の場」としての機能を広げ、子供から大人まで幅広い世代に相互理解と学びの場を提供する役割を担うべきと考える。このため、高校生を対象として、幼児への読み聞かせの方法を学ぶ講座を企画したい。講座では、絵本を読む際の声の大きさや間の取り方、スピードなど、幼児に興味をもって話を聞いてもらうためのコツについて、高校生が図書館の司書やボランティアから学ぶとともに、実際に幼児への読み聞かせを体験する。このことにより、講座に参加する幅広い世代の住民の交流が深まるとともに高校生が、幼児の発達について家庭科で学んだことを実体験を通じて深める効果も期待できる。

* 得た情報を基に、物事を推し量ったり予測したりする力や、目的に応じて必要な情報を見いだして文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連付けたりする力を調べる課題

◆中学校の課題例

○地球温暖化データとエネルギー消費データから、自分が取り組むべきことを論じなさい。（小論文）

（解答例）CO₂削減のために、エアコンの設定温度を2℃上げること。石油や天然ガスなど限りあるエネルギーは、いつかなくなる。そのため、代わりになるエネルギー開発の必要があること。

* 複数の学習内容を関連させ、実行可能な取組を考える力を調べる課題

◆小学校の課題例

○縄文時代と現代とでは、どちらの人間が幸せかを論じなさい。（討論）

（解答例）縄文時代の方が幸せ。生活するために助け合い、ケンカもないから。現代の方が幸せ。物が豊かで欲しければすぐに手に入るから。

* 考える基礎となる知識を活用して、問題解決する能力を調べる課題

〔自分の考えを構築するためのステップ〕

- （1）ある事柄についてのプラス面とマイナス面を整理する。
- （2）そのことを基によいか悪いか、賛成か反対かを決める。
- （3）それぞれの理由を、根拠をもって明らかにする。

「主体的・協働的な学習」が成立するために必要なことは何か？

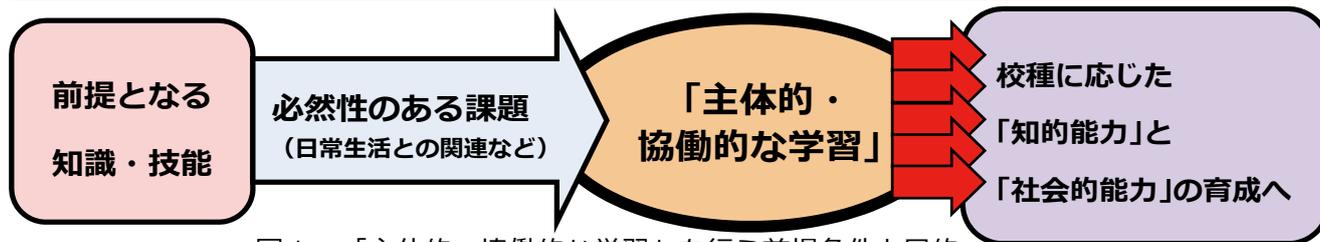


図1 「主体的・協働的な学習」を行う前提条件と目的

「主体的・協働的な学習」が成立するためには前提となる知識・技能を身に付けた上で、日常生活との関連などから必然性のある課題を設定することが必要である。その上で、「主体的・協働的な学習」を積み重ね、知的能力と社会的能力の育成につなげる。

「主体的・協働的な学習」の「指導の工夫」とは…

段階	〔段階1〕 課題を発見し、 考えを構築する	〔段階2〕 他者と関わる	〔段階3〕 考えを広げたり、 深めたりする
指導の工夫の観点	<p>①課題の発見と設定 児童・生徒が解決する必然性のある課題を発見し、学習する課題として設定する。</p> <p>②自分の考えの構築 児童・生徒が設定した課題に対して、自分なりに考え、課題の解決策を立てる。</p>	<p>①目的 協働して課題を解決する必要感をもたせるように設定する。</p> <p>②編成 グループの人数や集団の質を工夫する。</p> <p>③役割・手順 編成した集団において分担する役割や、どのように進めていくかの順序を決める。</p> <p>④表出から集約 集団の考えの表出の仕方や集約方法を工夫する。</p>	<p>①自分の考えの再構築 児童・生徒が課題の解決により、修正したり深化させたりした自分の考えをまとめる。</p> <p>②振り返りを基にした更なる課題の発見 児童・生徒が更に解決する必要性のある課題を発見する。</p>

表1 「主体的・協働的な学習」に関する指導の工夫一覧

「主体的・協働的な学習」の「指導の工夫」を「課題を発見し、考えを構築する段階」、「他者と関わる段階」、「考えを広げたり、深めたりする段階」の三つの段階に整理した。

そして、段階ごとに「指導の工夫の観点」を定め、『主体的・協働的な学習』に関する指導の工夫一覧を作成した(表1)。これらの指導の工夫の観点は、課題の発見と解決に向けた「主体的・協働的な学習」の一つの単元あるいは一単位時間の授業を計画する際に、参考になるものとする。

アクティブ・ラーニングの手法（例）

〔段階1〕 課題を発見し、考えを構築する

- ・課題の発見と設定から、自分の考えの構築へ

〔段階2〕 他者と関わる

【問題解決のプランの立案】

A 今回調べた〇〇について

〇〇のよい点、悪い点を押さえ、それを踏まえ、自分は〇〇に賛成か、または〇〇に反対かのどちらかの立場を選択し、自分がそう考えた理由を話してください。

- 1 グループの人に、①～④の番号をつけます。
- 2 司会は、④の人が行ってください。
- 3 まず、①→②→③→④の順に、一人30秒で、〇〇のよい点と悪い点、自分の立場（〇〇に賛成か反対か）と、そう考えた理由を話してください。
- 4 次に、①～④の人の意見を踏まえ、①の人から順に、「③さんの言った…という意見がよかった。」「②さんと④さんの意見は、…（の内容）が共通していた。」など、4人の意見の共通点や相違点について具体的に話してください。
- 5 グループの中で出た全ての意見を振り返り、グループとしての意見を1つにまとめてください。
- 6 最後に、③の人は、グループとしての意見を、クラス全体に発表してください。



【自分の得た知識の深化】

B 今回学習した〇〇について

自分が理解した言葉を使って、〇〇というものは、どういうものか説明してみてください。

- 1 2人でペアになります。向かい合ってください。①と②を決めます。
- 2 まず、①→②の順に一人30秒で、自分が理解したことを基に、学習した〇〇について説明してください。
- 3 次に、相手の話を聞いて、自分が気付かなかったこと、なるほどと思ったこと、他者に話してみても自分の表現を変えようと思ったことなどを踏まえて、〇〇について150字以内でまとめてください。
- 4 一人ずつ全員が発表するために、順番を決めます。最初の人から前に出て、発表してください。
- 5 一人がそれぞれ30秒で、〇〇について自分が書いたものを基に、話してください。
- 6 最後に、全員の話聞いて、自分が気付かなかったこと、なるほどと思ったこと、他者に話してみても表現を変えようと思ったことなどを踏まえて、〇〇について、改めて150字以内でまとめてください。



〔段階3〕 考えを広げたり、深めたりする

- ・自分の考えの再構築から、更なる課題の発見へ

実践事例

小学校

第6学年 算数「比例と反比例」

(第8時/全16時間)

育てたい能力

知的能力【読み、書き、計算などの基礎・基本を基に考える力】⇒比例の性質についての理解を基に問題を解決する。

社会的能力【学習したことを日常生活との関わりで考える力】⇒身近な生活で解決できる問題について考える。

前提となる
知識・技能

- ・ y が x に比例するとき、 x の値が2倍、3倍…になると、それに伴って y の値も2倍、3倍…になることを理解している。
- ・ 比例の関係を、グラフに表したり、グラフから読み取ったりすることができる。

必然性のある課題
(日常生活との関連など)

- ・ 数の多い物を数えるときに、比例の性質を利用することによって、およその数で数える。

主体的・協働的な学習

具体的な指導の工夫

○問題を把握する。

「画用紙300枚を、全部数えなくても準備できる方法を考えよう。」

○解決の見通しをもつ。

○自力解決を行う。

○グループで検討する。

自力解決したことを基にして、全部数えなくても画用紙300枚を準備できるか検討する。

○実際に検討した方法で画用紙300枚を数える。

自分の考えた方法だけではなく、他者の考えた方法も試してよりよい解決方法を導き出す。

問題解決のプランの立案



○解決方法についてまとめる。

比例の関係を式にまとめる。

○日常生活で、比例の性質を利用できる場面がないか考える。

(例) 目的地にどれくらいで着くか。
風呂の水が何分でたまるか。

課題の発見
考への構築

〔段階1〕①課題の発見と設定

数をたくさん数えた経験を想起させ、一枚ずつ全部数えるより、よい方法を考える必要感をもたせる。

他者と関わる

〔段階2〕①目的

比例の性質を利用した課題の解決方法を発表し合い、自分の考えと他者の考えとを比較して、共通点や相違点を見つけて自分の考えを再構築することにつなげる。

自分の考えを
広げたり、
深めたりする

〔段階3〕②振り返りを基にした更なる課題の発見

学習したことを基にして、日常生活で比例の性質を利用して課題を解決することができる場面を考えさせる。

中学校

第2学年 外国語「The 3Rs in Germany and Japan」

（第6時／全9時間）

育てたい能力

知的能力【習得した知識・技能を基に、実行可能な取組を考える力】⇒自己の思いについて英語を活用したスピーチにする。
 社会的能力【他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する力】⇒スピーチを伝え合い、自分のスピーチを修正する。

前提となる知識・技能

- ・ 動名詞（～ing）や主語＋動詞＋目的語＋前置詞＋名詞の文を理解している。
 （例）Reading books is my hobby. I enjoy learning about Japan.
- ・ Why や Because を活用することができる。

必然性のある課題
 （日常生活との関連など）

- ・ スピーチ発表会に向けて、Why や Because を用いて「高校生になっただらしたいこと」を伝えるためのスピーチを考える。

主体的・協働的な学習

- Why と Because の使い方を復習する。
- 「高校生になっただらしたいこと」について伝えるスピーチを考える。
 Why と Because を用いたスピーチの原稿を考える。
- ペアワークに取り組む。
 Why や Because を活用してペアで伝え合う。
- グループワークに取り組む。
 ペアワークで理解した、ペアの相手の内容をグループで紹介し合う。
- 自分の考えの再構築をする。
 相手のスピーチのよいところを踏まえて、自分のスピーチ原稿を見直す。
- 次時の学習の見通しをもつ。
 次時に学習するスピーチ発表会に向けた原稿の作成について見通しをもつ。

知識の深化



課題の発見
 考えの構築

他者と関わる

自分の考えを
 広げたり、
 深めたりする

具体的な指導の工夫

【段階1】①課題の発見と設定

前時に学習したことを想起させ、スピーチ発表会に向けて、Why や Because を活用してスピーチをする必要感をもたせる。

【段階2】③役割・手順

まず、ペアで Why や Because を活用しながら、「高校生になっただらしたいこと」を伝え合う。次に、グループになり、ペアの相手の「高校生になっただらしたいこと」を英語で紹介する。

【段階3】②振り返りを基にした
 更なる課題の発見

Why や Because を活用して、他のテーマでもスピーチで伝え合うことなどについて学習の見通しをもたせる。

教えて！アクティブ・ラーニング

Q：なぜ、アクティブ・ラーニングが求められているのですか？

A：文部科学省「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（平成26年11月）には、次のようにあります。

「ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子供たちがそうした教育のプロセスを通じて基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要である。」



⇒ 東京教師道場の授業研究では、『主体的・協働的な学習』の指導の工夫一覧を活用して、「主体的・協働的な学習」を取り入れた授業を行ったところ、児童・生徒の課題に対する最初の自分の考えが、目的を明確にした他者との協働的な学習を経て、振り返り際には、より深化しました。

Q：アクティブ・ラーニングに必要なことは何ですか？



A：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 教育課程企画特別部会「教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）」（平成27年8月）には、次のようにあります。

「思考力・判断力・表現力等は、学習の中で、（中略）主体的・協働的な問題発見・解決の場面を経験することによって磨かれていく。身に付けた個別の知識や技能も、そうした学習経験の中で活用することにより定着し、既存の知識や技能と関連付けられ体系化されながら身に付いていき、ひいては生涯にわたり活用できるような物事の深い理解や方法の熟達に至ることが期待される。また、こうした学びを推進するエンジンとなるのは、子供の学びに向かう力であり、これを引き出すためには、実社会や実生活に関連した課題などを通じて動機付けを行い、子供たちの学びへの興味と努力し続ける意志を喚起する必要がある。」

⇒ 東京教師道場の授業研究では、「主体的・協働的な学習」を効果的に行うためには、その前提条件として、「前提となる知識・技能」を学習前までに確実に習得させることと、日常生活との関連など「解決する必然性のある課題」を設定することが、重要であることが分かりました。

Q：アクティブ・ラーニングの視点に立った授業の評価はどうすればいいのですか？

A：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 教育課程企画特別部会「教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）」（平成27年8月）には、次のようにあります。

「子供たちが学びの見通しを持って、粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげるという、主体的な学びの過程の実現に向かっていくかどうかという観点から、学習内容に対する子供たちの関心・意欲・態度等を見取り、評価していくことが必要である。こうした姿を見取るためには、子供たちが主体的に学習に取り組む場面を設定していく必要があり、『アクティブ・ラーニング』の視点からの学習・指導方法の改善が欠かせない。また、学校全体で評価の改善に組織的に取り組む体制づくりも必要となる。」



⇒ 東京教師道場の授業研究では、「主体的・協働的な学習」は指導法の一つであるため、児童・生徒の学習評価については、これまでと同様に行ってきました。ただ、評価の観点によっては、例えば、「受け身の学習に比べ、児童・生徒の具体的な姿を捉えやすく、評価がしやすくなるものがある」「主体的・協働的な学習を行うねらいから、評価すべきものがある」と考えています。